

## 2024 年 G/W 朝日連峰周遊

日程：5月2日(木) 夜発～5月6日(月)

メンバー：I崎、K林(記録)

### 5月2日(木)

上越線 岩本駅でI崎車に縋っていただき出発。アイサイト搭載の新車のフォレスターは、車間が詰まると警告、ラインを超えると警告、制限速度を20km超えると警告で賑やかだ。新潟経由で高速を降りて、某所で仮眠。

### 5月3日(金)

日暮沢小屋 (8:35)～大朝日小屋 (15:30)～大朝日岳ピストン

まだ建築中で一部開通の日本海東北自動車道(無料)を経由して山形自動車道に入り、月山ICで降りて大井沢を経由して日暮沢小屋の駐車場(620m)まで。既に30台近い車が停まっており大賑わい。支度をしてすぐに歩き出す。天気は快晴。今日は標高差1200m以上の長い行程だ。我々以外は竜門山方面に向かったようで前に新しい踏み跡は無く、後ろからも誰も来ない。稜線まではほとんど雪も無く急斜面の苦しい登り。稜線に出てからは雪が出始めたが途中登山道脇にカタクリの群生があり目を楽しませてくれる。これほど大きなカタクリの群生は始めてだ。



時々 大朝日岳日帰りの下山者とすれ違って話を聞くと山頂付近は凄い風との事。途中から彼方に大朝日岳を望みながら歩くが、遠いなー。

小朝日岳を超えて一旦大きく下って登り返すと急に風が強くなる。強風で体温を奪われるのを感じたので風下に降りて長袖のジャケットを着てヘアバンドを着けた。大朝日小屋の少し手前から強烈な風となるがなんとか小屋にたどり着き、ザックを置いて空身で大朝日岳をピストン。小屋の横は体を持って行かれそうな烈風だった。



小屋には管理人さんが入っており小屋代 一人 2000円を払う。宿泊者は10数名程度で快適に過ごせた。地元の大江町出身の管理人さんのガチの山形弁が、生まれだけ鶴岡のえせ山形県人のK林には 何となく嬉しい。

夕食はI崎さん担当で ご飯を炊いて、麻婆春雨とレトルトの魚数品。食事をしながら隣にいた20代の女性2人組と山の話で盛り上がる。I崎さん 若い娘相手に語る語る。

夕方小屋の窓から沈む夕日が奇麗に見えた。太陽が縦に潰れ、TVで見るサバンナに沈む夕日の様だ。日暮から気温が下がって上下インナーダウンを着て20時就寝。小屋の中からも外の唸るような凄い風の音が聞こえたが、耳線をしたらみごとに音を遮断してくれて熟睡できた。

## 5月4日(土)

大朝日小屋 (6:45)～狐穴小屋 (11:24)～以東岳 (13:50)～狐穴小屋 (15:50)

4時台はまだゴォー風の音が聞こえて早出は無理なので5時に起きて朝食を食べてのんびり様子見。6時を過ぎてから風が収まってきたので出発。今日はコースタイムで10時間の長い行程だ。今日も快晴で海側からの風が吹き続けて適度に体を冷やしてくれるのでありがたい。終始 左に飯豊連峰、右に月山、月山の左の遙か彼方に鳥海山、振り返れば大朝日岳を見ながらの贅沢な縦走路。なんて素晴らしい！時々雪の上を歩くが気温が高いため雪面が柔らかくアイゼンは不要だ。小屋で隣にいた毎週のように飯豊と朝日に通っているという新潟からの単独の女性と時々すれ違う。

西朝日岳と竜門山を越えると竜門小屋。朝日岳小屋も立派だが、この小屋も負けず劣らず立派な小屋だ。小屋の中を少し見学させていただく。ここも管理人さんがいた。昨晩は10数名程度だったそうだ。ここから狐穴小屋までが結構長いが休憩を取りながら気持ちよく歩く。これまで小さなアップダウンを繰り返したが寒江山まではガッツリ登らされた。三方境で以東岳方面に分岐して雪渓を少し右に下ってようやく狐穴小屋に到着。ちょうど以東岳をピストンしてきた人たちが戻った時間帯のようで数人の登山者がいる。管理人は不在だったが小屋の隅に不要な荷物をデポして荷物を軽くして以東岳に向かって出発。ここまでも長かったがここからのコースタイムも往復5時間と長い。ほとんど雪の無い長いゴロゴロ道をひたすら歩き、最後の長い登りを経て以東岳に到着。



いやー長かった。遙か彼方に今朝出発した大朝日岳が見える。よくぞあんな彼方から一日で歩いてきたものだ。360度の絶景で、北西側に全面凍結した大鳥池が見える。景色をたっぷり堪能してから下山開始。途中で新潟からの単独の女性とすれ違い立ち話。以東小屋に泊るとの事なので、もうこの先会う事はない。下山中 狐穴小屋に続く左側の雪渓を山スキーのパーティーが歩いているのが見えた。

狐穴小屋に戻ると1階は大賑わいになっていて狭いので2階に移動した。2階は小屋番とその山スキー仲間のパーティーが独占していたがスペースはたっぷり空いており、移動して正解だった。1階で以前所属していた山岳会の人とぼったり会って少し立ち話。

夕食は K 林担当で、アルファ米と昨晩と同じ麻婆春雨(ベーコンたっぷり)。管理人のグル

ープは豪勢な食事と酒で最後 浜名湖産の鰻の蒲焼で締めていた。いったいどれだけ食材をここまで担いできたのか。

流石に疲れていて、酒の回りが早く またご飯と麻婆春雨で腹がパンパンになってしまっ  
て一休み。I崎さんはいつものようにそのまま眠りに落ちた。



19 時半頃消灯の雰囲気だったので寝る支度をして就寝。うそのように暖かく、インナーダウン不要で 夜中に暑くてソックスを脱ぎ、さらに寝袋から出て体の上にかけて丁度よかった。トイレに起きたついでに外に出て星を眺めたが全く寒くなかった。

## 5月5日(日)

狐穴小屋 (6:15)～清太岩山 (10:00)～日暮沢小屋 (12:00)

今日は竜門山まで戻り、日暮沢小屋の駐車場まで戻るだけなので、のんびり起きて朝食を食べて出発。1階は既に 全ての登山者が出発した後だった。



竜門小屋まで戻ると山頂をバイパスして北側の雪渓を歩くルートができてい  
るが、時間はたっぷりあるし大した登りでは無いので山頂手前の分岐まで登  
って絶景を堪能する。ここまで戻ると大朝日岳がまた目の前だ。日暮沢方面  
の登山道は西側で日当たりが悪いせい  
か、たっぷり雪が残っていた。竜門山  
の山頂付近から長く雪渓が続いており、  
スキーで滑走するには良さそうだが

ここまで板を担ぎ上げるのは御免だと考えていたらスキーと靴をザックに付けて上がって  
きたカップルとすれ違う。狐穴小屋の小屋番のお仲間らしいが「コスバが悪い」とぼやいて  
いた。明後日天候が下り坂なのが判っているので、狐穴小屋まで板を担ぐのは確かにコスバ  
が悪すぎると思うが余計なお世話。

清太岩山を過ぎるとしばらくは雪の上を歩く割合が増えて何となく嬉しいし膝にも優しい  
が徐々に標高を下げるに従って気温が上がり、雪も少なくなってくる。完全に雪が無くなっ  
てから急斜面を休み休み下って丁度 12 時ピッタリに日暮沢小屋の駐車場に到着。いやー下  
界は暑い。結局 3 日間 12 本爪アイゼンとピッケルは出番無し。

車で本日の宿 大井沢温泉の「さくお」まで戻り、割引券をいただいて温泉に入って汗を流してから車を駐車場に停めて、「さくお」の隣の民宿兼蕎麦屋の「大原」で乾杯。ビールが旨い！板蕎麦を頼んだら凄い量で腹がパンパンになってしまった。

腹ごなしに近所を散策した。「自然と匠の伝承館」のおばちゃんと立ち話したら なんとこのおばちゃん高校の時ワングルだったそうで山の話に花が咲く。I 崎さん おばちゃん相手にも語る語る。無料のキャンプ場を覗いた後行った大日寺跡の説明によると このあたりは江戸時代 出羽三山に向かう行者が行列になって栄えていたそう。今は小学校も閉鎖された限界集落。

「さくお」にチェックインすると何と I 崎さんと私に別々の個室が割り当てられてびっくり。夕食までソファの上でごろ寝してゆっくり休めた。

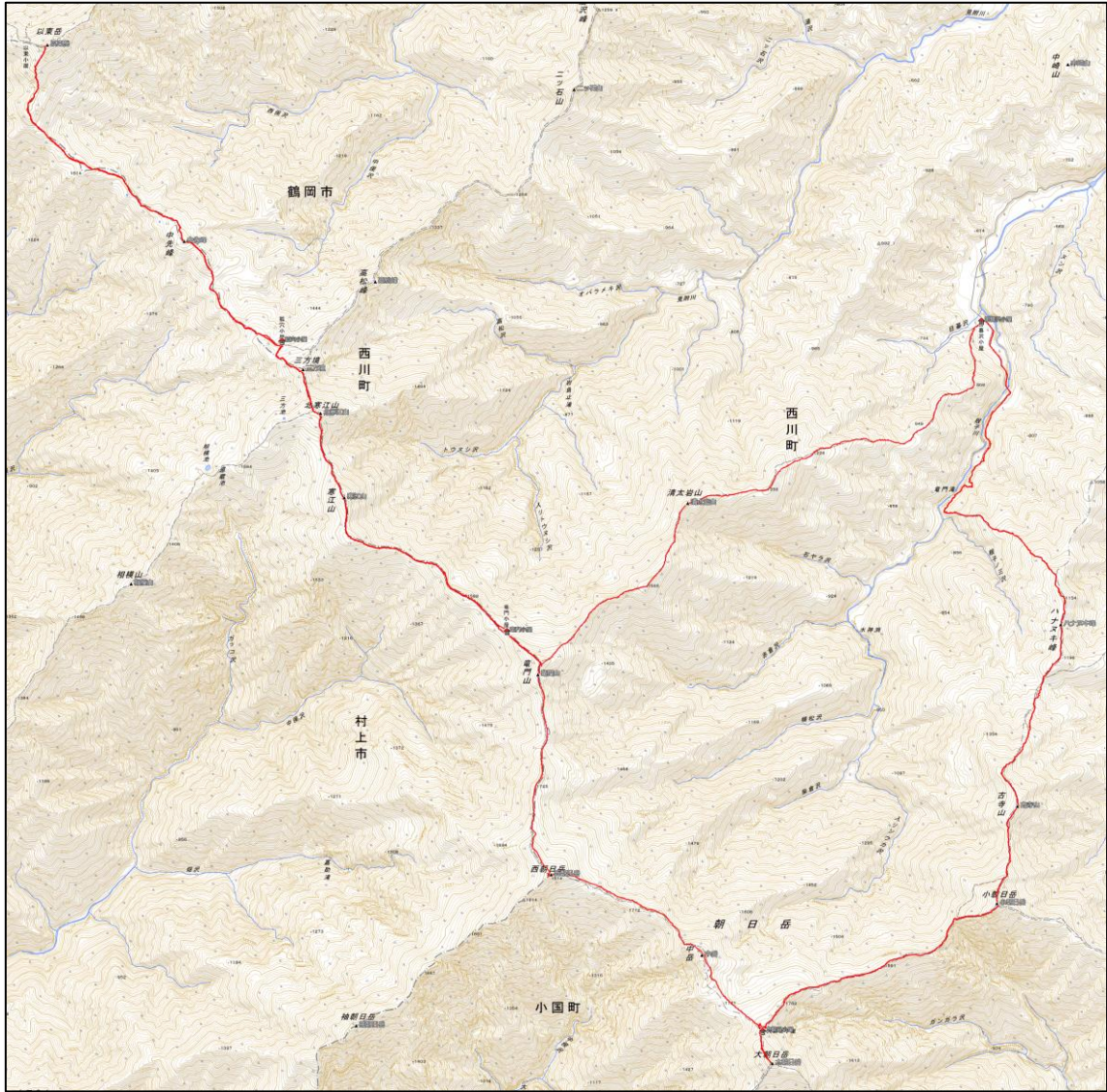
期待した夕食は山菜づくしとイワナの塩焼き。一つ一つ手が込んでいてとても美味しかった。夕食後温泉で買ってきた日本酒を全部飲んで寝た。夜はぐっと気温が下がり、羽毛の布団をかけて丁度良く 熟睡できた。



## 5月6日(月)

充実した朝食を食べてすぐに出発。行きと逆ルートで新潟から関越道に入って渋滞も無く岩本駅で解散。天気も良かったっぷりたっぷり歩いて充実した素晴らしい山行でした。一人でロングドライブしてくれたI 崎さんに感謝！





GPS トラック図 赤線が歩いたルート

1 日目 : 11 km

2 日目 : 17 km

3 日目 : 10 km